



大阪錦繪新聞
第百二號

四橋西北情郎
猩々堂九化記

子代の白牡丹
律とわさき
知ささ

新町南通二丁目木原の店を返りて後
小櫻といふ娼妓の艶容名の如く老翁
赤心の強氣の壯男も及ばず奴の小嵩も
肌足で逃出一巴枝額も今あつた
降余あすへ爰は再ける人カ
車の二件へ新町中へ評判高く
風説紛々何まを是ありと
記者も判せど其實説と
正さるとあつた一梅樓は登上
あつて其本人は曉聞あまう



第六百廿五

彫淺二良

